

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	林 要次
学位の種類	博士（工学）
学位記番号	都市博乙第410号
学位授与年月日	平成27年9月25日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日 文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	近代日本におけるフランス建築理論と教育手法の受容
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 北山 恒 横浜国立大学 教授 大野 敏 横浜国立大学 教授 大原 一興 横浜国立大学 教授 高見沢 実 横浜国立大学 准教授 守田 正志

論文及び審査結果の要旨

本論文は日本人として初めてフランス公認建築家資格を取得した中村順平（1887-1977）の横浜高等工業学校（現、横浜国立大学理工学部）における建築教育における理論と教育手法に着目し、近代日本におけるフランス建築理論と教育手法の受容の一端を解明するものである。原史料の事実から客観的・批判的に再読し、中村の教育と理論にみるフランス建築理論と教育手法の受容を学術的に論証し、中村の教育業績の再評価に向けた研究を行なっている。

林要次氏の学位論文は、当時ヨーロッパ世界で優位であった近代フランスの建築理論および教育手法の状況と、近代化のなかで日本における建築教育機関の変遷において、両者の媒介者として中村の建築教育を位置づけ、中村のエコール・デ・ボザール留学期の建築教育史料や各所に分散した中村の教育史料の発掘・調査に努め、史料を実証的に再構築したものである。

論の構成としては、まず既往研究の成果と課題を明らかにした後、近代黎明期の日本における「アーキテクチャー」概念の確立を考察する。欧米の主要4カ国、アメリカ・イギリス・フランス・ドイツの建築教育の差異を明らかにし、同時期の近代建築運動の潮流を概括し、当時のフランス建築教育の優位性を指摘している。しかしながら日本の建築教育の端緒は英国人ジョサイア・コンドルを工部大学校（後の帝国大学工科大学）に招聘したことに始まるため、フランスの「ボザール流」の教育は間接的にしか導入されていない。そのため、明治の中頃まで日本の建築教育は英国式のゴシック主義であった。その後、ジョサイア・コンドルから建築教育を引き継いだ辰野金吾がイギリス留学などを経て、近代日本の建築教育を確立させていく過程を明らかにしている。

次に中村が日仏で受けた建築教育に関する具体的な考察がおこなわれる。中村が卒業した名古屋高等工業学校における建築教育においては、帝国大学工科大学において辰野金吾に学んだ鈴木楨次が、当時ヨーロッパの主流であった近代フランスの建築教育を導入していたことを明らかにし、原史料に当たって細述している。

そして中村のパリ・エコール・デ・ボザール留学においてどのような教育を受けていたか、これも原史料に基づき、カリキュラム、教育手法、建築理論の講義、などその時間数や教育内容まで克明に調査している。そのフランスの建築教育エコール・デ・ボザールの教育内容が日本で初めて横浜高等工業学校に中村によって直接的に伝えられることになる。

中村は1925年に開設された横浜高等工業学校建築学科に教授就任する。当時は日本の建築界は日本建築学会を母体とした、佐野利器を中心とする構造技術を建築教育の中核とするグループが主流であったが、横浜高等工業学校では「アーキテクト」という職能人を教育する判断がとられ、中村の教授就任が決まったことが推測されている。中村によって日本で初めてのエコール・デ・ボザールの建築教育が導入される。その内容は原史料に当たり細述されている。横浜高等工業学校におけるエコール・デ・ボザールの建築教育導入にあたって、日本に適合させる様々な工夫がおこなわれたことを明らかにしている。

本論文は、多くの原史料に当たり、既往論文ではこれまでは推測として書かれていた中村順平

のエコール・デ・ボザールで受けた教育内容にまで詳細に調査がされたことで、日本への受容が明らかにされている。中村の建築教育とフランスとの関係を体系的に考察し、中村のフランス建築理論と教育手法の受容過程を明らかにし、それを通じて近代日本における建築教育確立の様子を概説するものとなっている。

以上のように林要次氏の論文は、近代日本の建築教育機関のひとつである横浜高等工業学校において、中村がエコール・デ・ボザールで受けた建築教育を基に、自身の建築理論と教育手法を確立したことを明らかにしている。この成果は、わが国におけるフランス建築理論と教育手法がどのようにして受容されてきたかを知る歴史的研究において貴重な業績となるものであり、また横浜国立大学建築学科のルーツを明らかにする貴重な論文である。本学の博士（工学）の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。

林要次氏の学位論文公聴会を平成 27 年 8 月 4 日（火）午後 4 時から建築学棟大会議室において開催し、公聴会終了後引き続き審査員全員出席のもとに学位論文審査会を開催した。その結果、本研究の成果は博士論文として十分な価値があること、および発表に関連する質問に対する回答から博士（工学）の学位を得るに相応な学力のあることを判定した。また、論文博士に必要な査読論文等の要件を満たしていることを確認した。

外国語能力については以下の内容により確認した。

① パリの運命』2012 年 7 月刊行

「60 ページの仏語の本の翻訳」程度（B6 変形版）約 10000 ワード

② ランス国立土木学校修士専門課程非常勤講師 2008-2009 年度（仏語）

③ リ第 8 大学博士課程研究免状取得課程：2002-2004 年

DEA（博士課程研究免状）論文（仏語）：約 35000 ワード（全 82P）

DEA（博士課程研究免状）学位申請審査会：論文＋口頭試問（仏語、2004 年 10 月）

DEA 課程単位取得：レポート＋口頭発表（仏語）

④ ランス政府給費留学試験（仏語試験＋面積試験（英語＋仏語））：2001 年

以上により最終試験は合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。